

オルガノグループは、
水で培った先端技術を駆使して、
未来をつくる産業と社会基盤の発展に
貢献します。

水は、地球という惑星に与えられた、命あるものすべてに共通の財産です。

オルガノは創業より水とともにあり、水を理解する心と、水を生かす技術を育み続けています。

生命の源、「水」がもたらす恩恵を、社会の基盤づくりから先端産業、

そして毎日の暮らしの中へ。私たちは、水処理の総合エンジニアリング企業として、

美しい地球環境との共存と共生に貢献していきます。

経営理念

オルガノは水で培った先端技術を駆使して
未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献する
パートナー企業としてあり続けます

長期経営 ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に、事業領域と展開地域を拡大し、
産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します
昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します



Total Engineering

総合水処理エンジニアリング企業として、
日々の生活と産業の発展をサポートしています



目次

イントロダクション	
経営理念／長期経営ビジョン	1
オルガノグループの強み	5
オルガノグループの歩み	11
オルガノグループの成長戦略	
価値創造プロセス	13
トップメッセージ	15
新中期経営計画	19
財務／DX戦略担当役員メッセージ	21
技術開発担当役員メッセージ	25
事業概要	27
水処理エンジニアリング事業	29
機能商品事業	31
オルガノグループのサステナビリティ	
サステナビリティマネジメント	33
コーポレート・ガバナンス	35
環境	41
社会	45
コーポレートデータ	
財務／非財務情報	49
連結貸借対照表	51
連結損益計算書／連結包括利益計算書	52
連結株主資本等変動計算書	53
連結キャッシュ・フロー計算書	54
会社情報	55

【編集方針】

オルガノグループは、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みをわかりやすくご理解いただくために、財務情報、経営戦略、事業環境、ESG(環境・社会・ガバナンス)などを一体的に報告するレポートとして、2020年より「オルガノグループレポート」に名称変更して発行しています。これからも本レポートの更なる充実に努め、ステークホルダーの皆様との対話に役立ててまいります。引き続きオルガノグループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本報告書に掲載されている「エコクリスタ、みずねつ／水熱、ビューリック、ビューアライト、α、オルガノフィルター、オールドリア、オールドピアクラウド、スーパーデサリナー、オルチエイサー、酸還王、エコクリスタ、オルブレイド、MPU、ストラタ、SGX、H-DAF、オルスマート」は、オルガノ株式会社の登録商標または商標です。

【参考にしたガイドライン】

経済産業省「価値協創ガイダンス」
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
ISO26000:2010 社会的責任に関する手引き
GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」

【将来の見通しに関する注意事項】

当報告書の記述について、将来の見通しについての記述は、現時点で入手可能な情報に基づき合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因の変化により大きく異なることがあることをご承知おきください。

INTRODUCTION

オルガノグループの強み

総合水処理 エンジニアリング企業

当社は分離精製・分析・製造の技術を活かし、半導体産業が求める極めて純度の高い超純水を作る装置をはじめ、各種産業が必要とする用水を供給する装置、生活や工場から出されるさまざまな排水をきれいにする装置など、多様な分野で高品質かつ安定的な処理水を提供する製品を取り揃えています。

また、水処理の総合エンジニアリング企業として、用水から排水まで水処理に関するほぼすべてのお客様のご要望に対応できる技術・サービス体制を構築しています。長期間にわたっての安定的な稼働保証や、効率的なランニング・運転管理の提案、メンテナンスや消耗品供給などサービス体制の確立なども合わせたトータルな提案ができることが当社の強みです。

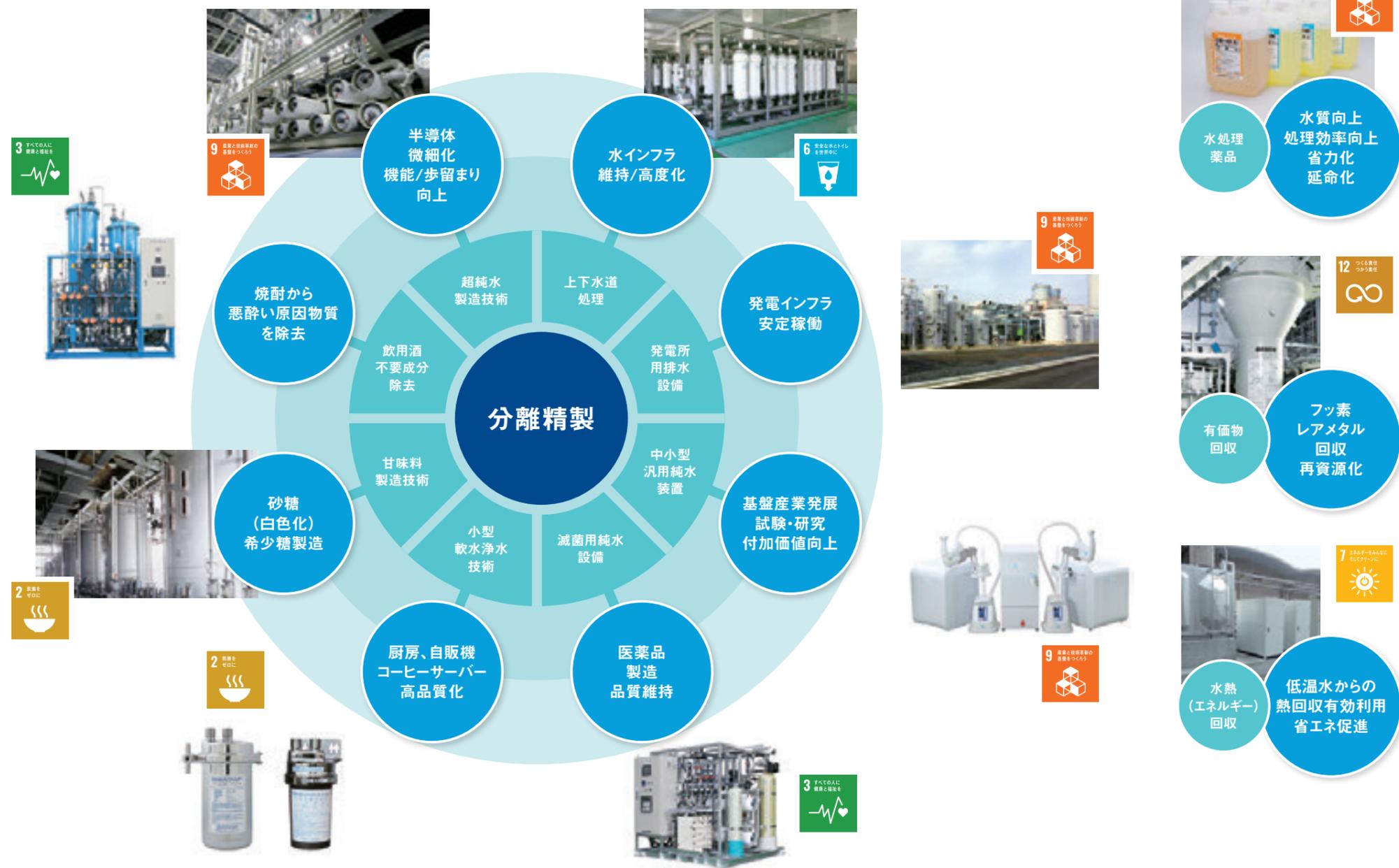


INTRODUCTION **2** オルガノグループの強み

分離精製のシステムとテクノロジー

分離精製技術の社会への貢献

- = 製品、技術
- = 社会課題への寄与（暮らしや産業への貢献）



当社の技術は、超純水から排水、各種の溶剤や薬液などさまざまな対象に適用されますが、共通しているのは「不要な成分を分離して除くこと」と「有用成分を高純度化すること」にあります。

これを効率よく、より高度に行うには対象に合わせて、必要な操作を組み合わせた最適なシステムを適用することがポイントになります。産業の発展とともに水へのニーズは高まり、良質の水が大量に必要となりました。その用途によって要求される水質は千差万別です。当社では最新の技術を組み込み、システムとして最適化し、お客様ごとに各々デザインしています。分離精製技術の適用先は純水や超純水製造、各種水処理や砂糖原料、焼酎原料の精製など多岐にわたります。

スマートフォン、液晶テレビ、パソコン、カメラ、金属製品、飲料や薬など、私たちに身近な製品は水なくして作ることはできません。微細な半導体や電気回路を清澄な超純水で洗浄したり、不純物のない安全な水を原料水としたり、モノづくりの分野で水は不可欠なものと言えます。

70年以上、水処理を中心に脈々と受け継がれ、既存分野はもとより、新たな適用分野を拡大している分離精製の技術が当社の強みです。

3 オルガノグループの強み

飽くなき水への探求

水は、地球という惑星に与えられた人類共有の財産です。しかもその潜在能力は、いまだ無限の可能性を秘めています。水の総合エンジニアリング企業「オルガノ」は、リーディングカンパニーとして、絶えず「水の価値の創出」を目指し飽くなき探求を続けています。

オルガノグループは、充実した設備と経験豊富な研究スタッフを投じた開発センターで、多種多様な水処理に関する基盤技術の深耕、高度な分析技術の確立、高精度な分離精製技術を開発しています。そして、産業環境や地球環境も見据えた包括的なエンジニアリングの研究、開発に至るまで、持続可能な社会を実現するため、さまざまな課題の解決や新たな価値創造に取り組んでいます。



世界初の技術開発

半導体製品の微細化に伴い超純水の純度がさらに求められる中、微粒子などの不純物の除去技術はもちろん、それを確認する分析技術にも更なる高度化が求められています。

当社は、独自開発した膜を利用して、世界で初めて10nm（1億分の1メートル）サイズの微粒子を計測する技術を開発しました。新規開発した膜、ろ過技術と連続自動観察技術を用いることで10nm微粒子の分析を実現し、半導体製品の品質・歩留まりの向上に貢献します。



4 オルガノグループの歩み

70余年にわたり培ってきた技術力

我々は1946年の創業以来、産業と生活に必要な水のニーズに応えてきました。

オルガノグループの歩みは、水の価値や可能性が拡大してきた歴史でもあります。

病院や研究所などに向けた無熱蒸溜水製造装置の開発に始まり、各種の産業における

純水・排水の処理設備や、上下水道・発電所などに向けた水処理設備、

半導体など電子産業に向けた超純水設備など、幅広い水処理装置・技術を手掛け、

国内外で産業や日々の暮らしの発展を側面から支える役割を担っています。

創業

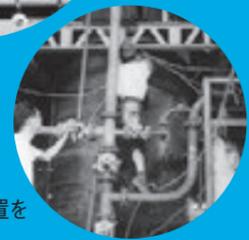
1946年

小型純水装置(無熱蒸溜水製造装置)を開発



1951年

国内初の大型純水装置を納入



1953年

糖特殊液精製分野に展開



1954年

水処理薬品事業を開始



1957年

国内初の電子産業向け超純水装置を納入

1959年

上下水道分野に展開



1959年

食品事業を開始



1966年

発電所向けの大型水処理プラント納入



1984年

医薬品製造分野に展開



1986年

総合研究所開設[戸田]



1986年

オルガノ(マレーシア)(現オルガノ(アジア))設立

1991年

半導体向けの納入が拡大



1989年

オルガノ(タイランド)設立

2003年

海外展開ソリューションサービス強化

2005年

包括ソリューションサービス本格化



2005年

開発センター設立[相模原]



2003年

オルガノ(蘇州)水処理有限公司設立

2005年

オルガノ・テクノロジー有限公司設立[台湾]

2014年

水熱利用システムによる省エネソリューションサービス開始



2018年

新経営理念長期ビジョンを制定

2020年

冷却水処理剤「オルブレイドシリーズ」による省エネソリューションサービス

2010年

オルガノ(ベトナム)設立

2013年

合弁会社 PTラウタン・オルガノ・ウォーター設立[インドネシア]

2015年

合弁会社 ムルガッパ・オルガノ・ウォーター・ソリューションズ設立[インド]2021年合併解消

2021年

オルガノ(アメリカ)設立

1940 1950

創業期

日本オルガノ商会の誕生

1946年長野県諏訪市で創業。日本初のイオン交換装置を主要営業品目とする企業として発足。戦後の復興と日本経済の再建にともなう産業界からのさまざまな要請に応じて、研究や装置の開発に注力し、水処理、糖類精製などの分野で実績を築いていきました。

1960

成長期

総合水処理エンジニアリング会社へ

世界で初めて連続式純水製造装置を完成、日本初の「バルスベッド」式糖液脱色装置を開発しました。また、公害への問題意識の高まりといった時代背景の中で原子力発電所の水処理装置の開発、本格的な超純水製造システムの実用化を果たし、公共下水道施設や企業の排水処理で実績を築き、総合水処理エンジニアリング会社へと大きく飛躍を遂げました。

1980

成熟期

革新と創造

1988年に「革新と創造」を経営方針に掲げ、社内風土を刷新、活性化し、海外での現地法人の設立、医薬品工業界向け事業の強化を進めました。さらに、事業領域の拡大、グループとしての連携体制の確立、技術開発強化のための組織の再構築などの経営課題を着実に成し遂げていきました。

2000

2010

飛躍期

事業領域と事業地域の拡大による更なる飛躍

2018年に理念体系を再編成。水で培った先端技術を水以外の領域にも拡大し、展開地域もひろげることで、産業の発展や社会の課題解決に貢献することを目指す長期経営ビジョンを策定しました。水の価値の創造を通して、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

※グラフは売上高の推移を表しています。